

外為マンスリーレビュー

2018/03/02

リスクセンチメントの改善はあるか

通貨ペア	基調		ページ数
ポンド/円	⇒	<p>メイ首相「内憂外患」</p> <p>予想レンジ: 140.000~ 149.500円</p>	2-3
豪ドル/円	⇒	<p>「外部環境」次第</p> <p>予想レンジ: 77.500~86.000円</p>	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



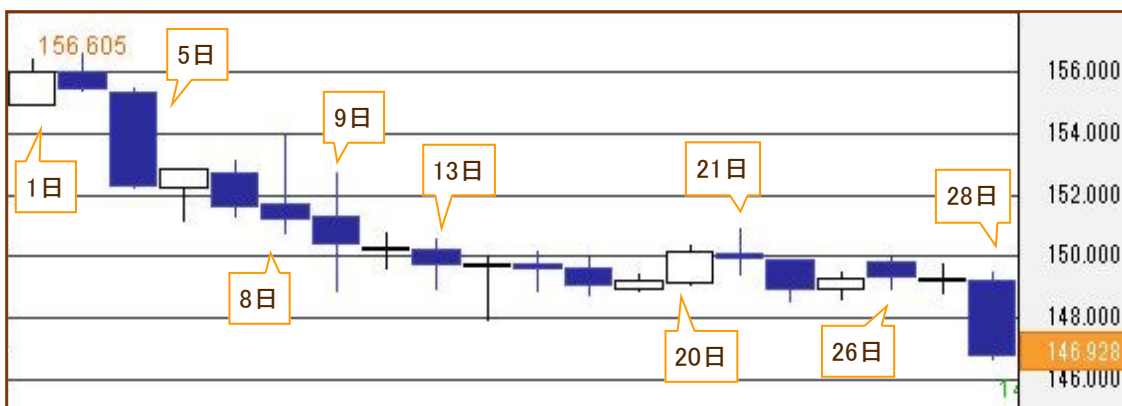
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ポンド/円 2月の推移

GBP / JPY

2月のポンド/円相場は146.712～156.605円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.3%下落（ポンド安・円高）した。なお、下落率としては英国で欧州連合（EU）離脱＝Brexitを問う英国国民投票が行われた2016年6月以来の大きさとなった。米1月雇用統計を基点に米長期金利が急上昇すると、これを嫌気して主要国の株価が大きく下落するなど、金融市場全体が不安定化する中でポンド安・円高が進行。英中銀（BOE）による追加利上げの期待が浮上するもポンドの支えにはなりきれなかった。下旬には、Brexitまで残り一年強となる中で、今後の交渉に対する不安が再燃してポンド安が加速した。



四本値

OPEN	154.956
HIGH	156.605
LOW	146.712
CLOSE	146.815

1日	英1月製造業PMIは55.3と市場予想(56.5)を下回ったが、対ドルを中心に欧州通貨買いが優勢となる中、ポンド売りの反応は一時的だった。
5日	英1月サービス業PMIは53.0と市場予想(54.1)を下回り、前回(54.2)から低下。その後、NYダウ平均が下げ幅を拡大し25000ドル、24000ドルの節目を相次いで下抜けるとポンド/円の下げも加速した。
8日	BOEは政策金利(0.50%)と資産買入れプログラム(4350億ポンド)の据え置きを全会一致で決定。同時に発表したインフレレポートでは、経済成長率見通しを引き上げた(18年+1.6%→+1.8%、19年+1.7%→+1.8%)一方、インフレ見通しは小幅に引き下げた(19年2.37%→2.28%、20年2.21%→2.16%)。その上で「経済が予想通り成長した場合、引き締めはやや早期に実施する必要」との見解を示した。これを受けて追加利上げ期待が高まりポンドは急騰したが、英長期金利につれて米債利回りが上昇すると、これを嫌気して米国株が下落。NYダウ平均の下げが1000ドルを超える中、ポンド/円は失速した。
9日	英12月鉱工業生産は前月比-1.3%(予想-0.9%)、英12月製造業生産は前月比+0.3%(予想+0.3%)、英12月貿易収支は135.76億GBPの赤字(予想115.50億GBPの赤字)と弱めの結果が目立った。
13日	日経平均株価やNYダウ先物の下落を背景に大きく下落し、一時149円台を割り込んだが、英1月消費者物価指数は前年比+3.0%となり、市場予想(+2.9%)を上回った事を受けて149円台後半に値を戻した。なお、英1月小売物価指数は予想通りに前年比+4.0%となり、英1月生産者物価指数は前年比+2.8%と予想(+3.0%)に届かなかった。
20日	一部のニュース専門サイトが「欧州議会は、英国がEUを離脱した後も、欧州単一市場(シングル・マーケット)へのアクセスを許可する『特権』を提唱するようだ」と報じた事を受けて一時ポンド買いが活発化した。
21日	英1月失業者数は0.72万人減、英1月失業率は2.3%といずれも前回(0.62万人増、2.4%)から改善。10-12月期週平均賃金は前年比+2.5%と予想通りの伸びとなった。その後、カーニーBOE総裁が「金利の道筋にはコミットしない」としながらも「追加利上げに向かっている」と議会で証言。続いて、英金融政策委員会(MPC)のホールデン委員が「待望の賃金上昇がようやく根を下ろし始めた」などとの見解を示した事を受けて一時ポンド買いが優勢となった。
26日	NY市場に入るとポンドが急落。英最大野党・労働党のコービン党首が同国のBrexitについて演説を行い、EU関税同盟の残留を支持するとして、メイ首相との対決姿勢を鮮明にした。
28日	EUが英国に提示した離脱協定の草案に、英領北アイルランドと英国本土間の国境設置を促しかねない内容が含まれた。これに対してメイ英首相が「この条件に同意する英国の首相はいない」と述べて強く反発。これを受けてBrexitへの懸念が高まりポンド売りが活発化した。

GBP/JPY

日経平均

FTSE100

英2年債利回り

英10年債利回り

OPEN	23276.10
HIGH	23492.77
LOW	20950.15
CLOSE	22068.24

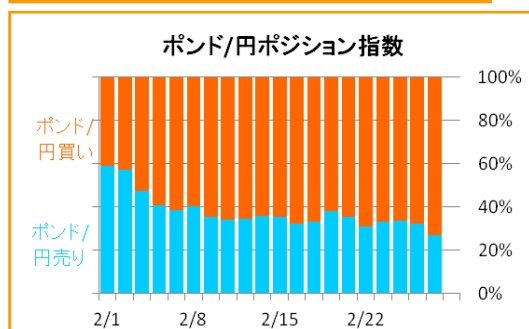
OPEN	7533.55
HIGH	7554.73
LOW	7073.03
CLOSE	7231.91

OPEN	0.667%
HIGH	0.838%
LOW	0.581%
CLOSE	0.778%

OPEN	1.525%
HIGH	1.692%
LOW	1.482%
CLOSE	1.501%

2月のポジション動向

3月の英国の注目イベント



- ・2月英製造業PMI(1日)
- ・2月英建設業PMI(2日)
- ・2月英サービス業PMI(5日)
- ・1月英鉱工業生産(9日)
- ・1月英貿易収支(9日)
- ・2月英消費者物価指数(20日)
- ・2月英生産者物価指数(20日)
- ・2月英小売物価指数(20日)
- ・2月英雇用統計(21日)
- ・2月英小売売上高(22日)
- ・BOE政策金利発表(22日)
- ・BOE議事録(22日)
- ・EU首脳会議(22-23日)
- ・10-12月期英GDP・確報値(29日)

3月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

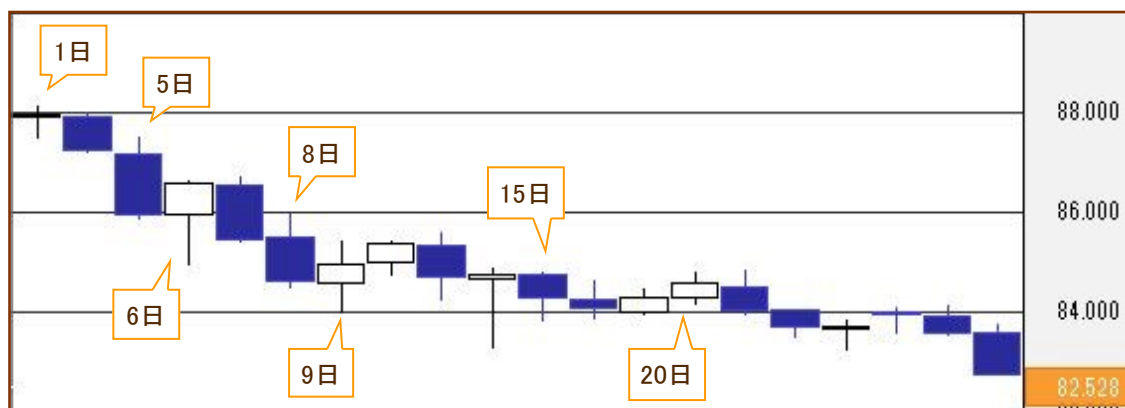
欧州連合(EU)首脳会議が3月22~23日に開催される。1月29日にEU理事会が採択した英国のEU離脱=Brexitに伴う激変を緩和するための「移行期間」に関する交渉方針を示した「追加交渉指令」では、3月の首脳会議でBrexit後の英国とEUの将来の関係の枠組みについてガイドラインを採択するとしている。首脳会議を終えれば、Brexitまで残り1年となるが、ガイドラインの採択に漕ぎ着けられるかについては、不透明な状況と言わざるを得ない。EUが示した草案には、EU加盟国アイルランドと地続きの英領北アイルランドの国境をEUが従来どおりに管理する方針が示されたが、メイ首相はこれに強く反発している。メイ首相は2日に演説を行い、Brexit後の通商方針を示す予定だが、EU草案との違いが浮き彫りになる公算が大きい。こうした中、英国の最大野党・労働党はメイ首相が進めるEU関税同盟からの撤退に反対しており、与党内の親EU派からもこれに同調する動きがある。メイ首相にとっては文字通りの「内憂外患」であり、こうした中ではポンドの上値が押さえ込まれる公算が大きい。3月のポンド/円相場は、Brexitがテーマとなりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 140.000-149.500円)

豪ドル/円 2月の推移

AUD/JPY

2月の豪ドル/円相場は82.806~88.127円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.9%下落(豪ドル安・円高)した。なお、下落率としては2016年4月以来1年10カ月ぶりの大きさとなった。米1月雇用統計や米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長の議会証言などが米長期金利を押し上げる中、世界的に株価が暴落した事が豪ドル/円にとって最大の下落要因となった。なお、NYダウ平均の値幅が1000ドルを超える日が上旬を中心に4日もあった。ひと月を通して金融市場全体が不安定な動きとなる中、28日には82.80円前後まで下落して約8カ月ぶりの安値を付けた。



四本値

OPEN	87.926
HIGH	88.127
LOW	82.806
CLOSE	82.808

1日	豪12月住宅建設許可件数が前月比-20.0%の大幅な落ち込みとなった事を受けて一時豪ドル売りが強まった。
5日	前週の米1月雇用統計で平均時給が大幅に伸びた事をきっかけとする米長期金利の上昇が主要国の株価を圧迫。日経平均株価が592円安、NYダウ平均が1175ドル安の暴落となる中、豪ドル/円は87円、86円と大台を次々に割り込んで下落した。
6日	豪12月貿易収支は予想(2.00億豪ドルの黒字)に反して13.58億豪ドルの赤字を計上。また、豪12月小売売上高は前月比-0.5%と、予想(-0.2%)以上に減少した。その後、RBAは政策金利の据え置き(1.50%)を発表。同時に発表した声明は概ね前回を踏襲した内容で、「政策金利据え置きは成長・インフレ動向と整合的と判断」「中期的な国内総生産(GDP)成長率は約3%の見通し」「インフレはしばらく低水準にとどまる見通し」「消費者物価指数(CPI)上昇率は2018年に2%をやや上回ると予想」「豪ドルの上昇は物価と経済を鈍化させる」などとした。豪ドル/円は、日経平均株価の下げ幅が一時を超えた事もあって一時85円ちょうど前後まで下落。しかしその後、NYダウ平均がプラス圏に持ち直すなど、欧米市場に入ると株価が落ち着き始めた事から86円台半ばまで買い戻された。
8日	ロウ豪中銀(RBA)総裁は経済フォーラムの夕食会で「短期的に政策を調整する根拠は強くない」「次の政策金利の動きは引き上げの算が大きい」などとの見解を示した。
9日	豪12月住宅ローン件数は前月比-2.3%と予想(-1.0%)以上に減少。RBA四半期金融政策報告では「豪ドル高は経済の成長を抑え、インフレを下押しする」「雇用市場は拡大しているが、以前ほどの勢いはない」「完全雇用とインフレ目標(2-3%)の中央値到達には時間がかかる」などとする見解が示された。
15日	豪1月就業者数は1.60万人増となり、市場予想(1.50万人増)を僅かに上回った。また失業率は予想通りの5.5%となった。就業者数の内訳でフルタイム労働者が減少していた事や、前月の失業率が0.1ポイント上方改定(5.5%→5.6%)された事などから、一時豪ドルが弱含んだ。
20日	豪中銀(RBA)議事録が公表され、「低金利が失業率を減らし、インフレを押し上げている」「豪ドルの上昇が経済成長とインフレを遅らせる」「基調インフレは2020年半ばまで2.25%にむけて緩やかに上昇」「2017年の雇用は3.25%程度上昇し、多くは常勤が増加」「家計債務は依然高水準で注意が必要」などとする見解が示された。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	23276.10
HIGH	23492.77
LOW	20950.15
CLOSE	22068.24

NYダウ平均

OPEN	26083.04
HIGH	26306.70
LOW	23360.29
CLOSE	25029.20

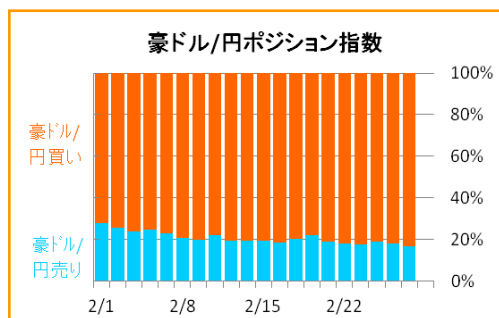
上海総合指数

OPEN	3478.670
HIGH	3495.093
LOW	3062.743
CLOSE	3259.408

豪10年債利回り

OPEN	2.820%
HIGH	2.948%
LOW	2.753%
CLOSE	2.808%

2月のポジション動向



3月の豪州・中国のイベント

- ・2月中国財新製造業PMI(1日)
- ・1月豪住宅建設許可件数(5日)
- ・10-12月期豪経常収支(6日)
- ・1月豪小売売上高(6日)
- ・RBAキャッシュレート(6日)
- ・10-12月期豪GDP(7日)
- ・2月中国外貨準備高(7日)
- ・1月豪貿易収支(8日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・2月中国消費者物価指数(9日)
- ・1月豪住宅ローン件数(13日)
- ・2月中国鉱工業生産(14日)
- ・RBA議事録(20日)
- ・2月豪雇用統計(22日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

3月の見通し

リスク選好地合いで買われる傾向が強い豪ドルと、リスク選好地合いで売られる傾向がある円の組合せは、当然ながらリスク回避局面において最も下落しやすい通貨ペアのひとつとなる。3月の豪ドル/円相場は米長期金利の上昇に端を発した金融市場の混乱がどのタイミングで収まるのかが焦点であろう。豪中銀(RBA)の利上げ期待が盛り上がらない事もあって、豪ドル相場は主要国株価や国際商品価格など「外部要因」次第の展開が見込まれる。豪ドル/円相場は、長期トレンドラインである52週移動平均線(執筆時85.976円)を既に下回っており、同線からの下方乖離率は4.4%に達している(3月2日11時時点)が、2008年のリーマンショックを除いた過去の下方乖離局面では、最大で10%程度乖離したケースもある。52週移動平均線が今後下向きに転じる事を考慮しても、計算上77円台までの差は想定しうる事になる。3月の豪ドル/円相場は市場ボラティリティの高止まりに鑑みて想定レンジを広めに見ておきたい。(神田)

(予想レンジ: 77.500-86.000円)